

研修報告書 No.14

所 属： 国立国際医療研究センター病院

研修先： 嶺北中央病院

1. 県外在住医師から見た高知の地域医療の状況

嶺北中央病院を中心とした高知の地域医療は、医師不足や高齢化が進む中、包括的な医療を提供することで地域住民の健康を支える重要な役割を果たしていました。特に、訪問診療や外来診療、リハビリテーションなど、入院医療以外の分野にも注力しており、住民が安心して生活できる環境づくりに尽力していると感じました。

高知のような地方では、交通の便が限られている地域も多く、患者が医療機関にアクセスすること自体が課題となるケースが見受けられました。そのため、訪問診療や地域密着型の診療所が非常に重要な役割を担っており、医師の多面的な活躍が求められていることを実感しました。また、多職種連携が円滑に行われており、医療スタッフが限られる中でも効率的に医療を提供できている印象を受けました。医師だけでなく看護師、リハビリスタッフ、栄養士、薬剤師などがそれぞれの専門性を活かしながら、限られたリソースの中で効率的に診療を進めていました。これは、都市部とは異なる地方医療ならではの強みであり、住民に寄り添う医療の形だと感じました。一方で、慢性的な医師不足は依然として大きな課題であり、特に若手医師の定着をどのように促すかが今後の重要なテーマだと考えます。

2. 研修内容に対する意見

今回の地域研修では、以下の活動に参加しました。

- **入院患者の診療**：患者さんの全体像を把握し、包括的な診療を実
- **訪問診療**：自宅療養中の患者さんへの診療を同行し、地域医療の現場を体感
- **外来診療見学**：診療所や病院外来での診療を見学し、幅広い疾患に対応するスキルを学習
- **予防接種**：インフルエンザワクチン接種を経験し、地域住民の予防医療の重要性を理解
- **リハビリテーション**：多職種と連携して患者さんの回復支援を観察

スケジュールは多岐にわたる診療内容が組み込まれており、非常に充実したものでした。事前の症例説明や背景情報の共有が少ない場面があり、事前学習が十分に行われていれば、さらに効果的な学びが得られたと考えます。今後、研修医が事前に予習できる仕組みや、ディスカッションの場を設けることができれば、理解がより深まり、研修の質が向上するのではないかと感じました。さらに、研修医としては、症例の選定や診療

計画に積極的に関与できる機会があれば、より主体的に学ぶことができたのではないかと思います。とはいえ、限られた医療リソースの中で、研修医に対しても幅広い機会を提供してくださった点に感謝しております。

3. 今回の臨床研修で得たもの

今回の研修では、以下のような成果を得られたと感じています。

1. 地域医療の理解

地域に根差した医療の重要性を肌で感じました。都市部では患者さんが医療機関にアクセスすることが当たり前ですが、地方ではそれが難しい状況もあり、訪問診療や多職種連携の重要性を再認識しました。

2. 実践的なスキル

予防接種や訪問診療など、地域医療に特有のスキルを実際に経験することができました。特に、患者さんやその家族とのコミュニケーションが重要であり、そのスキルを実践で磨くことができました。

3. 多職種連携の重要性

看護師、リハビリスタッフ、栄養士など、様々な職種が一体となって患者さんを支える現場を目の当たりにし、チーム医療の重要性を実感しました。都市部では、診療が医師中心に進むこともありますが、地方では多職種の力が不可欠であると強く感じました。

4. 柔軟な対応力

限られた医療リソースの中で、どのように診療を進めていくべきかを考える力が養われました。医師が一人ひとりの患者さんに寄り添い、多面的な役割を果たす必要があることを実感しました。

4. 今後の展望

今回の研修を通じて、地域医療における多職種連携や患者中心の医療の重要性を学びました。この経験を活かし、将来的には地域医療においても質の高い診療を提供できる医師を目指したいと考えています。また、地方の医療課題に対する解決策として、ITやAI技術を活用した効率化の可能性も探っていきたいと感じました。